

国民の目・耳・口ふさぐ違憲立法

自・公

秘密保護法案を強行

秘密保護法案の廃案を求め抗議する人たち（11月5日、国会正門前（しんぶん赤旗）6日付）



憲法の大原則——人権・民主主義・平和を踏みにじる秘密保護法案が参院で自民・公明により強行されました。

衆院でも参院でも強行採決に次ぐ強行採決——国民の声を踏みつけにし、国民の怒りを恐れた末の暴挙です。法案は国民の目・耳・口をふさぎ、アメリカと一緒に「海外で戦争する国」にするのが狙い。憲法の基本原理をこごとく覆す違憲立法であり、絶対に認められません。

国民に追い詰められた末の暴挙

安倍政権の終わりの始まり

志位委員長が指摘



“数の暴走”で国民の信頼を急速に失い、政権を投げ出した第一次安倍政権に戻った——。日本共産党の志位和夫委員長は記者会見で「今回の強行劇は、安倍政権の終わりが始まったということだ」と強調。自公の暴挙は「安倍政権の強さの表れでなく弱さの表れ。国民にまともな説明する言葉を持っていない。国民に追い詰められての暴挙だ」とのべました。(5日)

近畿民報

発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所
2013年12月号外 No.2

〒540-0004 大阪市中央区玉造2丁目15番7号USビル2F
Tel.06(6764)9111 Fax.06(6764)9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

日本共産党

※日本共産党は以上の見解を発表しました。